



Little Diamonds

31

No.

2008年2月28日

発行：浦和レッドダイヤモンドズ

高い目標に燃えてチャレンジしてほしい

アカデミーセンター・矢作典史センター長に聞く

浦和レッズのユース、ジュニアユースなどを統括するアカデミーセンターのセンター長に、2008年度から矢作典史氏が就任しました。今シーズンの下部組織の育成方針と、新センター長としての抱負を聞きます。

就任にあたってまず今のお気持ちを聞かせて下さい。

矢作 クラブからは、とにかく下部組織からトップチームへ選手を上げるように育て、トップチームでも下部組織でも名実ともにナンバーワンにしたいということをやられています。難しい仕事だし、誰もができる仕事ではないと感じていますので、今回、声をかけていただいて、ありがたいなと思っています。

浦和レッズにはこれまでどのような印象を持っていましたか。



矢作 ファンやサポーターがたくさんいて、選手冥利につけるクラブ。プロ選手としてサッカーをやるには日本で一番良いクラブだと思っています。また、下部組織に関しても実際に見て良い選手はいますし、アカデミーセンター長の前任者である村松さんご尽力されていたので、ほかのクラブと比べても遜色のない、決してひけを取る内容ではないと考えています。

そうした環境の中で、レッズでは下部組織からトップチームに上がり、活躍できる選手がこれまでなかなか出ていません。何が必要でしょうか。

矢作 下部組織からトップに上げるということや言うと、最近成功しているのは、ガンバ大阪ということになりますが、地域から12歳くらいの良いタレントを採ってきて、その子たちの才能を上手に生かしてあげています。また、どのようなサッカーをするかということはありませんが、上のカテゴリーにステップアップしてもサッカーは同じであるということが大切です。

矢作典史 アカデミーセンター長

やばぎ・のりふみ 1963年11月13日生まれ 埼玉県出身
サッカー歴 読売ユースA - 読売ジュニア - 読売サッカークラブ(1983) U.S.I.U(全米大学サッカーリーグ1部・1984~1986) 富士通(JSL2部・1989~1992)
指導歴 クーパーコーチングジャパン(1994~2004) 京都パープルサンガ(現京都サンガFC)U-13監督、U-15監督、U-18コーチ(2004~2007)
日本サッカー協会公認S級コーチ、アメリカサッカー協会指導者Aライセンス、AFC C級インストラクター
元日本サッカー協会技術委員会委員



例えば中学年代の選手とプロの選手と一緒にプレーをしたときに、プレーの質の高い低いはあるにしても、大枠は同じで違和感なくプレーできる一貫したサッカーというものがあれば、選手は上のカテゴリーに進んだときに迷わずに喜びます。そして、下から上へ上がっていくことを嫌わない文化というのも必要です。

しかし、レッズの場合は、難しい面もあると思います。これは世界のビッグクラブにも共通していることなんです。ビッグクラブになればなるほど、ユースとトップの選手の差が開いてくる。そうすると、上へ上がる選手の割合は当然下がります。アーセナルなどプレミアリーグで、だいたい1年に1人上がれるかどうかと言われていますが、オランダのアイヤックスだと1.5人で、だいたい違う訳です。レッズは、代表クラスの選手がたくさんいますから、当然ハードルは高い。日本代表レベルでないと、レギュラーにはなれません。そういう選手を毎年出すというのは、簡単ではないですね。ただプロ選手を育てるということではないのですから。

難しい課題ですが、どう取り組んでいきますか。
矢作 力のあるスタッフがたくさんいますし、今の下部組織にはタレントもいますので、どうにか結果は出せるかなと思っています。直接のプレッシャーは宝物を預かっている監督、コーチが受けることになるので、そこを自分が助けてあげられればいいですし、これまでに積み重ねてきたものがあって、ゼロからということではないので、よく自身から何かをやるということではなくて、選手などを見て、クラブの置かれている立場なども勉強してやっていこうと思っています。

その上で、目的は決まっていますので、そこに向けて何をやれば達成できるかということを見つけない。例えば、もしかしたら、どういう選手に育てていくのかというイメージが抽象的で共有できていないのかもしれない。そうであるならば、言葉や映像にして具体的にビジョンを示さないといけません。海外でも通用する選手ということであれば、海外を体験させるのは

もっと早いほうがいいんじゃないか。あるいは、1日2時間のトレーニングでは足りないかもしれないとか。

そういう部分をいろいろと横断的に、オジェック監督などトップチームにも話を聞かせてもらって、その上で、目標に向かっていくには何が必要なのかということを考えていきたい。みんな同じ方向にベクトルが向いているんだけど、外から来た僕が手伝わら、そのスピードが加速していくようになればいいですね。大きな目的を達成するための方法論を別の経験をもっている僕が提案して、これだとわかったら、みんなを説得して走っていくということですね。ものごとを見たときに比較するとわかりやすいということがありますが、僕はこれまでレッズにはいなかった人間ですから、違った視点、違った物差しで計れることもあると思っています。

最後に選手たちへメッセージを。
矢作 目指しているハードルは高いので、選手のみなさんは一生懸命燃えてチャレンジしてほしいと思います。J1の上位とか下位でもなく、J2でもない、レッズは日本を代表するチームで、そこを目標に据えて、クラブも選手たちに要求していますから、その辺りの目標をあらためて見直して、チャレンジしてほしいと思います。

2008シーズン指導体制

YOUTH STAFF

監督	堀 孝史
コーチ	岩瀬 健
コーチ	天野賢一
GKコーチ	井嶋正樹
	ジュニアユース兼任
アスレティック・トレーナー	藤家 薫

JUNIOR YOUTH STAFF

監督	名取 篤
コーチ	淀川知治
コーチ	池田伸康
コーチ	土橋正樹
GKアシスタントコーチ	杉尾一憲
アスレティック・トレーナー	安齋健太郎

さらに発展を期待し、これからも見守っていきます

前アカデミーセンター長・村松 浩



これまで、アカデミーセンターの仕事に関して完璧ではありませんが、ある程度、トップにつなげるための体制作りとしてベースを整えてきました。選手たちのレベルもずいぶんと上がってきて、全国大会に常時出られるようになってきています。個々の選手を見て、各年代の代表や代表候補、JFAのエリートプログラムに名前を連ねる選手などが出てきて、成果が出つつあります。

これからはさらに上積みして、発展をさせていく段階で、センター長も替わって、また違った視点から育成をより充実させることができると思います。また、コーチ陣も人数を増やすなど体制強化を図っていて、4月には育成年代専任のフィジカルコーチも招く予定ですし、これまで手をつけられなかった部分にも着手し、もう一つ発展させていこうとしています。

私個人としては、浦和レッズレディースの監督になりました。今まで見てきたアカデミーの子どもたちを身近に見ることができない寂しさはありますが、成長を見守ることはできますし、私自身は現場で育ってきた経緯がありますので、現場でやる喜び、ワクワクした気持ちも感じながら、新シーズンをスタートしています。女子サッカーをどれだけ変えることができるかということは私にとっての新たな挑戦ですし、女子スポーツの人気種目の1番がサッカーになるよう、まずは自分のチームを鍛えて、女子サッカーが楽しく魅力のあるものだと思っていただけるように力を尽くしていきたいと思っています。

Jユースサハラカップ2007 優位に進めながら ゴール割れず、初戦敗退

昨年12月9日(日)に行われたJユースサハラカップ第15回Jリーグユース選手権の2回戦で、浦和レッズユースは柏レイソルU-18と対戦。途中まで優勢に試合を進めたが、後半20分に退場者が出るとやや受け身に回り、38分に失点。そのまま0-1で敗れた。高校3年生にとっては、これがレッズユースでの最後の試合となった。



終始速いプレスで柏からボールを奪った(129 / 柏戦)

Jユースサハラカップ2007 決勝トーナメント2回戦				
12月9日(日) / 日立柏サッカー場(千葉県)				
柏レイソル U-18	1 前0 後1	VS	浦和レッズ ユース	0 前0 後0
GK	柴田大地			
DF	池田涼司(84分 / 矢部雅明) 山地 翔 浜田水輝 永田拓也			
MF	石沢哲也(59分 / 阪野豊史) 山田直輝 田仲智紀(67分 / 和田祐樹) 高橋峻希			
FW	原口元気(88分 / 武富尚紀) 林 容平(88分 / 鈴木秀史)			
得点				
退場	山地(65分)			

後半途中までは相手を圧倒 速いプレスも得点にならず

2回戦・柏戦(12月9日)

レッズユースは4-3-3のフォーメーション。林容平を中央に右に高橋峻希、左に原口元気の3トップ。中盤は山田直輝を底に、田仲智紀と石沢哲也が左右の上がり目に位置するVの字の陣形で臨んだ。立ち上がりから全員が力を惜しまぬ速いプレスでボールを奪い、左右のサイド攻撃や、中央からクサビのパスを入れて突破を図るなど多彩な攻めを見せた。柏にほとんどチャンスを与えず、カウンターピンチもGK柴田大地の好セーブなどでしのいだ。しかし7本のシュートはいずれもゴールを割れず0-0のまま前半終了。

後半に入っても相手に息をつかせぬ激しいプレスでレッズの優位は動かず、前半よりも積極的にゴールを狙う姿勢を見せた。しかし

20分、DF山地がこの日2枚目の警告で退場。中盤を1枚減らしてサイドとゴール前のケアを重視したこともあり、柏にボールを回され始め、38分、中央から右に振られた折り返しを蹴りこまれた。

その後は攻撃的な選手を投入し、最後まで1点を追ったが、届かなかった。



前半32分、林がシュートを放つ(129 / 柏戦)

永田が左から突破を図る(129 / 柏戦)



きれいに決めようとしすぎた

監督 堀 孝史

ボールを積極的に取りに行きながらも無謀なプレーはしないようにという指示を選手たちはよく理解して試合に入っていたと思います。中盤でうまくボールを取れていましたが、そこから少しゆっくりになってしまい、きれいに決めようとして相手に守られてしまうことが多かった。あの展開で前半シュート7本というのは物足りなかつ

たですね。後半はもっと積極的に打つことを意識させました。それももうまくいったと思いますが、退場者が出てからは、中盤をある程度相手に渡さざるを得なかったです。

前半のうちに得点できていれば、と思いますが、それは今後の課題として選手たち自身も考えていると思います。

チーム強化目的に「GO FOR 2014 CUP」を開催 第1回大会はレッズユースが優勝、菅井がMVP

昨年12月25日(火)から28日(金)まで、さいたま市内でユース年代の大会「GO FOR 2014 CUP」が行われた。

これはチームの強化を目的として、レッズユース、大宮アルディージャユース、浦和東高校の3者の提携で開催されたもの。参加チームは、柏レイソルU-18、八千代高、横浜F・マリノスユース、FC東京U-18、帝京高、藤枝東高、名古屋グランパスU-18、四日市中央工業高、サンフレッチェ広島ユースなど全国の強豪チーム。クラブ、高校の枠を越え、関東エリア以外から

も参加があったことは、ふだん接する機会がほとんどないチームとも対戦でき、さらにBチーム同士の試合も組まれており、選

手たちにとっては貴重な実戦経験の場となった。大会名の「GO FOR 2014 CUP」は、2014年開催の世界カップ南アメリカ大会では、現在の高校年代が日本代表の中心になり、世界で活躍してほしいという意味を込めたもの。

レッズユースは予選リーグで柏U-18、四日市中央工業高、帝京高と対戦し、2勝1分けのグループ1位で決勝トーナメントへ進出。準々決勝で浦和東高、準決勝で大宮ユースを破り、決勝では予選リーグで引き分けた柏U-18と対戦。4-1で勝ちを収め、第1回大会優勝となった。MVPにはレッズユースの菅井順平が選ばれた。



前半10分、原口元気がゴールを決める(1227 / 準決勝・大宮戦)

和田祐樹も落ち着いた守備を見せた(1227 / 準決勝・大宮戦)



前半9分、高橋峻希がGKをかわしゴールを決める(1227 / 準決勝・大宮戦)



冷静な球さばきで中盤を作った山田直輝(1227 / 準決勝・大宮戦)

強くなった。2008年も勝ちを目指す

監督 堀 孝史

4日間の連戦の中でこれだけやれたのは強くなってきたのだと思います。来シーズンも1試合でも多くやって、全部の試合で勝ちにいきたいと思います。

高円宮杯第19回全日本ユース(U-15)選手権 2年ぶり出場はベスト8で敗退



後半30分、礪部が1試合2点目を決め3-0とする(1215 / 徳島戦)

昨年12月、高円宮杯第19回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会に2年ぶりに出場した浦和レッズジュニアユースは、1次ラウンド3試合を全勝で勝ち上がり、グループ1位で決勝トーナメントに進出。23日に行われたラウンド16(1回戦)で名古屋グランパスエイトU-15を破ったが、25日の準々決勝では東京ヴェルディ1969ジュニアユースに0-1で敗退。ベスト8でシーズン最後の大会を終えた。

アグレッシブな守備で勝利

ラウンド16・名古屋戦(12月23日)

レッズは、序盤からFW、MFが高い位置で積極的にプレスをかけてボールを奪い、攻撃につなげた。前半11分にCKを奪い、ニアサイドでMF近藤誠が頭で合わせて先制。その後もボールを奪うと素早く攻撃に移り、試合を優位に進めた。



前半11分、CKから近藤がヘッドで先制(1223 / 名古屋戦)

後半もレッズペースで進み、31分、FW礪部裕基がドリブルでペナルティエリア左に侵入。逆サイドに走りこんだMF堀田稜がパスを受け、冷静に流し込んだ。

終盤、名古屋の反攻で、ロスタイムに1点を返されたが、レッズジュニアユースは持ち味であるアグレッシブな守備が光って、名古屋のシュートを後半の4本のに抑え、2-1で勝利した。



後半31分、ゴールを決めた堀田に仲間が駆け寄り(1223 / 名古屋戦)

徐々に押され、後半失点

準々決勝・東京V戦(12月25日)

いつもどおり中盤が菱形の4-4-2で臨んだレッズは、前線からの積極的なプレスを連動した守備を見せ、ヴェルディと互角の展開を続けた。しかし25分を過ぎると、相手の高い技術でじわじわと押され、後半6分にカウンターから失点。GK小笠原正人が一度はシュートを弾いたが、こぼれたボールを詰められた。



前半11分、左からチャンスを作る矢島慎也(1225 / 東京V戦)

1点を取り返そうと攻勢に出るレッズだったが、焦りからか、縦へ急ぐようになり、ボールをつなげられず、ヴェルディにいなされて、徐々に時間が過ぎていった。終盤、DFの岡本拓也を前線に上げてパワープレーに出たが、1点が遠く、そのままタイムアップ。0-1で敗れ、ベスト8で姿を消した。



守備で奮闘する岡本(1225 / 東京V戦)

1次ラウンド第1戦	
12月9日(日)	
鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム(徳島県)	
浦和レッズジュニアユース	6 前2 後4 VS 前0 後0 三田学園中学校
GK	小笠原正人(73分/中島聡志)
DF	岡本拓也 石田晋ノ介(70分/小出啓太) 新井純平(64分/篠田達郎) 近藤 誠(50分/西山航平)
MF	矢島倫太郎(57分/小峯洋介) 堀田 稜(68分/片 慎吾) 若井祥吾 広瀬健太(64分/矢島慎也)
FW	礪部裕基 鈴木大輝
得点	近藤、鈴木2、堀田、若井、礪部

1次ラウンド第2戦	
12月15日(土)/徳島市球技場第1競技場(徳島県)	
徳島ヴォルティスジュニアユース	0 前0 後0 VS 前2 後1 浦和レッズジュニアユース
GK	小笠原正人
DF	西山航平 岡本拓也 石田晋ノ介 新井純平
MF	堀田 稜(31分/近藤 誠) 若井祥吾 広瀬健太(79分/片 慎吾) 矢島慎也(70分/篠田達郎)
FW	礪部裕基 鈴木大輝
得点	礪部2、堀田

1次ラウンド第3戦	
12月16日(日)/徳島市球技場第2競技場(徳島県)	
清水エスパルスジュニアユース	0 前0 後0 VS 前1 後2 浦和レッズジュニアユース
GK	小笠原正人
DF	西山航平 岡本拓也 小出啓太 新井純平
MF	近藤 誠 若井祥吾 広瀬健太 矢島慎也
FW	礪部裕基 鈴木大輝
得点	礪部2、鈴木

ラウンド16	
12月23日(日)	
ひたちなか市総合運動公園陸上競技場(茨城県)	
浦和レッズジュニアユース	2 前1 後1 VS 前0 後1 名古屋グランパスU-15
GK	小笠原正人
DF	西山航平 岡本拓也 小出啓太 新井純平
MF	近藤 誠 若井祥吾 広瀬健太(28分/矢島倫太郎) 矢島慎也(67分/堀田 稜)
FW	礪部裕基 鈴木大輝
得点	近藤、堀田

準々決勝	
12月25日(火)	
ひたちなか市総合運動公園陸上競技場(茨城県)	
浦和レッズジュニアユース	0 前0 後0 VS 前0 後1 東京ヴェルディジュニアユース
GK	小笠原正人
DF	西山航平 岡本拓也 石田晋ノ介 篠田達郎
MF	近藤 誠(60分/矢島倫太郎) 若井祥吾 広瀬健太 矢島慎也(53分/清水慎太郎)
FW	礪部裕基 鈴木大輝
得点	

1年で伸びを感じた。今後さらに

ジュニアユース監督 名取 篤

選手たちは全ての力を出して戦ってくれたと思います。その中で、これだけの差があったということは真摯に受け止めますが、ヴェルディには1年でだいぶ近づいたと思います。これがユース年代では対等に戦えるようになれば、それがプロに近づく、力が伸びるといことだと思えます。この悔しさが、今後につながるようにしてもらえたらと思います。

毎年、前線からプレスをいって戦うサッカーをしているんですが、それを今年のチームもやってくれたと思うし、これをまた見ていた1、2年生がどう感じるかだと思います。3年生はユースに上がる子、高校サッカーへ行く子と分かれますが、どこへ行ってもこれからですから、頑張ってもらいたいと思います。

JFAプレミアカップ2008 埼玉県大会制し、関東へ

第10回埼玉県ユース(U-13)サッカー選手権大会兼JFAプレミアカップ2008埼玉県大会に出場していたレッズジュニアユースは、2月9日(土)と野八王子サッカー場で大宮アルディージャジュニアユースと決勝を行い、2-0で勝利。3月1日から始まる関東大会へコマを進めた。

1回戦、さいたま春野中を6-0で下したレッズジュニアユースは、準々決勝でANフォルチFCを2-0で破り、準決勝で狭山ジュニアユースFCと対戦。狭山の速い寄せとゴール前を固める守備に、持ち味のパスワークが生かせず苦戦したが、後半16分、平山創士の左クロスに中央で受けた佐藤大介が、さらに右へ流し、最後は右から走りこんだ繁田秀斗がシュート。ようやくネットを揺らし、これが決勝点となった。

2月3日(日)の予定が雪のため延期された決勝は、大宮ジュニアユースと接戦になったが、CKのチャンスを生かしたレッズが勝ちを収めた。関東大会に優勝すれば5月の全国大会に進み、全国優勝チームにはマンチェスター・ユナイテッド・カップの出場権が与えられる。



JFAプレミアカップ県大会を制したレッズジュニアユース(29)

前半16分、ヘディングで先制する金野僚太(126 / フォルチ戦)

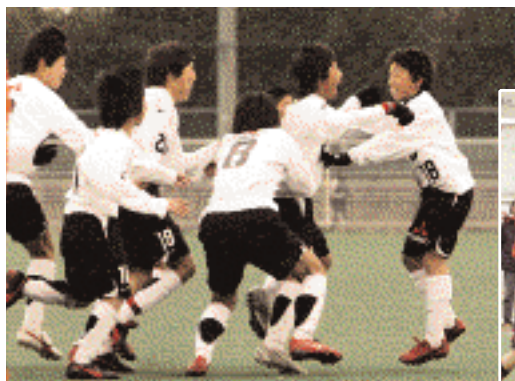


後半16分、決勝ゴールを挙げた繁田秀斗(22 / 狭山戦)

準決勝	
2月2日(土) / 熊谷スポーツ文化公園多目的グラウンド	
浦和レッズジュニアユース	1-0 狭山ジュニアユースFC
GK	齋藤賢太
DF	西澤秀平 西山 奨 新井純平 村上健太(28分 / 佐藤大介)
MF	立野峻平 水落 敬(41分 / 平山創士) 繁田秀斗(56分 / 田口翔太郎) 小峯洋介
FW	中村駿介(52分 / 西袋裕太) 金野僚太
得点	繁田

決勝	
2月9日(土) / 野八王子サッカー場	
浦和レッズジュニアユース	2-0 大宮アルディージャジュニアユース
GK	齋藤賢太
DF	西澤秀平 西山 奨 新井純平 村上健太
MF	立野峻平(38分 / 佐藤大介) 水落 敬(38分 / 平山創士) 繁田秀斗(57分 / 田口翔太郎) 小峯洋介(59分 / 小田切敦史)
FW	中村駿介 西袋裕太(55分 / カドコダイ アシカン)
得点	佐藤、西袋

後半22分、小峯洋介がシュートを放つ(22 / 狭山戦)



後半9分、CKから先制ゴールを決めた佐藤大介(右から2人目)が仲間にアピール(29 / 大宮戦)



後半18分、西袋裕太がCKからヘッドで2点目(29 / 大宮戦)



後半24分、GK齋藤賢太が相手のシュートを弾く(29 / 大宮戦)

CKから見事な2発！試合決す

決勝・大宮戦(2月9日)

レッズは前線から積極的にプレスをかけ攻守の切り替えの速いサッカーを展開。しかし、なかなかシュートまではつなげられず、前半は0-0で終了した。後半に入り、8分に中盤の選手2人を交代。その1分後、交代出場したMF平山創士の左CKを、同じく交代出場したMF佐藤大介が左足で目の覚めるようなボレーシュート。美しい弾道のボールをネットに突き刺し、流れを一気に引き寄せた。さらに13分、再び平山の右CKに、今度はFW西袋裕太が反応。滞空時間の長いボールを、頭1つ飛び出す高い打点からヘディングでたたきつけて、2点目を決め、決勝を制した。

常に目標を持って次に進んでいく

コーチ 池田伸康

お互いよく知っている相手だったので、がちがちの試合になることはわかっていました。だから試合前には、勝つのも良い試合をするのも自分たち次第だと話しました。そういう意味では、戦う気持ちというものが出せて良かったと思います。僕自身は特に何も言っていないんですけど、自分たちで勝ちたいという気持ちを出して、自分たちで考えて、アップのときから盛

り上がってやってくれましたね。内容も悪くなかったと思います。しかし点を取ってから少し相手に合わせてしまったところがあって、自分たちのサッカーができなくなった時間帯があるのは反省点です。世界へはまだ遠いですが、次のラウンドにも進めました。目標を持つことが大事ですから、常にそうやってトレーニングしていきたいです。